第9回
江戸川区ひきこもり支援協議会
議事録

江戸川区福祉部

第9回江戸川区ひきこもり支援協議会

日時：令和7年2月10日（月）午後2時30分から午後4時30分

場所：グリーンパレス 集会室401

出席者：委員 学識経験者、ひきこもり支援専門家、ひきこもり経験者の家族、
ひきこもり経験者、医療関係者、相談支援関係者、町会自治会関係者、
民生・児童委員、就労支援関係者、居場所づくり事業関係者、
教育関係者、江戸川区福祉部長

事務局 生活援護管理課長、ひきこもり施策係職員

- 議事：1 ひきこもり支援推進事業の課題と解決方法の検討
2 更なる家族支援方法の検討
3 ひきこもり実態調査に代わる支援方法等の検討
4 その他
5 閉会

議事

1 ひきこもり支援推進事業の課題と解決方法の検討

区が実施している支援事業の説明を行い、以下の各課題に対する助言を求めた。

- ・ひきこもり相談窓口の役割に対する認知度向上とその方法
- ・居場所のニーズの多様化への対応
- ・相談窓口の名前の検討

【委員から出た意見】

- ・認知度向上は広報えどがわで特集記事を組んでもらうよう要望したらどうか。
- ・町会や自治会で出している広報の活用も検討したらどうか。
- ・有名 YouTuber と対談などをしたら若い方にも見てもらえるのではないか。
- ・若い方はSNSが多く紙を見ないが、年配の方はまだ紙媒体になじみがある方がいる。
- ・支援者が諦めずに支援のチラシを渡してくれたため、家族から当事者の調子が良い時を見計らい渡したところ、そこから支援に繋がり、ひきこもり卒業となった。
- ・家族会などに行けない方も多く、その方たちに支援の情報をどのように知らせていくのかが難しい。
- ・独自のチラシを作成し、ポストに投函すれば見てくれるのではないか。
- ・動画広告やHPのバナー広告などにリンクを貼れば見てくれるのではないか。
- ・町会の掲示板にポスターを貼るのは案外見てくれるかもしれない。
- ・少しずつでも構わないので発信し続けることが必要ではないか。
- ・「ひきこもり」の名称については、すぐに伝わるのでこのまま続けた方が良いと思う。
もし必要であれば「ハートポート」のような愛称を検討してはどうか。
- ・当事者として「ひきこもり」という名称に特に抵抗はなかった。
- ・支援の現場では、「ひきこもり」を耳にしたとたん拒否されてしまうことがある。
その反面、家族にとっては分かりやすいことがメリットとなっている。

- ・愛称のつけ方はプロへの委託や区民の方にアイデアを出していただくなども考えられる。
- ・神奈川県大和市は「こもりびと」というネーミングに変えてから支援と繋がった方が増えており、「ひきこもり」という名称は一定の割合で苦手に思われている方が多い。
- ・よりみち屋は民生委員の視察も多く認知につながった。認知してもらうためには実際に目で見て頂くことが大事だと思われる。
- ・相談窓口も、相談の流れなどを見てもらうといいのではないかな。
- ・新聞で記事になるとネット記事にもなり波及効果はすごく大きく、信頼できる媒体であるため、今後も区の広報の力で継続的に取材をしてもらえるとありがたい。

2 更なる家族支援方法の検討

- ・相談支援と繋がっているひきこもり状態にある方のうち、家から出られない方への支援が半数を占めている。
- ・多くの当事者が対人関係に不安を抱えており、当事者とコミュニケーションが取れないことが最大の課題となっている。
- ・当事者とコミュニケーションが取れない場合、その家族に対し支援を行い、間接的に当事者へアプローチしている。

以上から、課題解決のため家族に向けた更なる支援方法について助言を求めた。

【委員から出た意見】

- ・家族支援からなかなか本人支援に繋がらないことが多く、どのような支援がよいかそう簡単には答えが見つからない。
- ・家族会という名前が仰々しく参加をためらう方もいるため、参加のハードルを下げることも課題である。
- ・家族会は毎月第一土曜日の決まった日付での開催で予定を立てやすい。また、参加人数も多すぎないため、参加者同士が顔見知りとなり、雑談や愚痴などを話せる場として活用できている。
- ・オンラインでの家族会も検討してはどうか。リアル会場に来る手前のステップでお試しできる場があるとよいのでは。
- ・家庭でコミュニケーションが取れない背景には、親や学校への不満を聞いてもらえず、すれ違いが発生していることが多い。そこで相談窓口の役割となるが、親と当事者のニーズが違うので、それぞれに対しての支援が必要となってくる。

3 ひきこもり実態調査に代わる支援方法等の検討

- ・令和3年度から実施したひきこもり実態調査は、令和5・6年度に実施した未回答者への調査をもって終了予定である。
- ・実態調査の結果、多くの当事者やその家族が相談支援に繋がるきっかけとなった。

- ・ひきこもり支援推進事業の周知にも効果があった。

以上から、実態調査が終了した場合、ひきこもりの状態の方やその家族のニーズ把握や相談支援事業に繋がるツール、効果的な周知をどのように行うかについて助言を求めた。

【委員から出た意見】

- ・実態調査をどのように終了させていくかの検討が必要である。
- ・18万世帯に調査を実施し、未回答世帯への調査も行い、大変多くの方に回答いただいている。
- ・民生委員も調査に協力したが、実際に訪問したわけではなく、委員が知っている情報の提供だけであったため、ひきこもりの状況が分からない方が多かった。
- ・区は調査から繋がった方への支援を重点的に実施し、調査は民生委員など他の力を借りて進めていくべきではないか。ひきこもり施策係だけで進めるのは難しいと感じる。
- ・実態調査は終了ということになるだろうが、広報を続けていくことなど形を変えて、周知効果を得られるよう検討が必要だろう。

4 その他

厚生労働省が作成した「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～」について解説

【解説概要】

- ・ひきこもり支援の対象者の考え方や定義が広がる。
- ・ひきこもり支援の目指す姿において、社会参加の実現や就労はプロセスであり、支援のゴールではない。
- ・「自律」とは社会への適応や自分を律するといったとらえ方ではなく、本人の尊厳や主体性の感情を回復するプロセスを当事者と支援者が共有しながら目指していくもので、結論や答えはないことが書かれている。
- ・事例が多数掲載されており、事例から実際の支援を体験する形で理解を深める内容となっている。

5 閉会